



TOP NEWS
6/27
Tue.

埼玉県消費者団体研修会委託事業

第1回県内消費者団体研修会 消費者教育の実践について学習

埼玉県内の市町村暮らしの会や消費者団体など17団体54人が参加し埼玉会館にて開催。午前中の学習会では、講師に柿野茂美さん(公益財団法人消費者教育支援センター)を迎え「私たちができる、私たちがだからできる地域での消費者教育」と題して、講演をいただきました。消費者が毎日の買い物で何を選ぶかで企業や社会が変わることを具体的な事例をもとにお話いただき、グループワークを交えて学びました。午後からは6つのグループにわかれて、講演の感想、消費者教育の取り組みの現状などをテーマに話し合い、その後、グループ別に発表をおこないました。



田中誠様



永島朗様



森和江様

6/29

Thu.

埼玉県生協連第46回通常総会 役員選任など全ての 議案が承認されました

さいたま共済会館601会議室にて、代議員42人(実出席37、書面出席5)が出席し開催されました。来賓として埼玉県県民生活部消費生活課課長田中誠様、JA埼玉県中央会常務理事永島朗様、埼玉県地域婦人会連合会副会長森和江様よりご挨拶をいただきました。次に、岩岡会長理事が第1号議案から第4号議案まで一括提案しました。続いて4人の代議員からの発言、議案討議のまとめをおこない、全ての議案が承認されました。



7/13

Thu.

第53回埼玉県消費者大会第2回プレ学習会 ヒバクシャ国際署名の意義と被爆の実相を学ぶ

浦和コミュニティセンターにて、講師の田中熙巳氏(日本被団協代表委員)から「核兵器禁止条約は世界をどう変えるか〜核兵器禁止条約とヒバクシャ国際署名の意義を学ぶ〜」、木内恭子さん(しらすぎ会副会長)から「被爆の証言」をお聞きする学習会を開催し64人が参加。署名の意義と被爆の実相を学び核兵器のない平和な世界への想いをあらたにしました。



7/14

Fri.

ヒバクシャ国際署名埼玉連絡会 核兵器の廃絶を願い駅頭署名活動を実施

平均年齢80歳を超えた被爆者が「生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい」とはじめた「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」を市民に呼びかけるために浦和駅東口にて署名活動を実施し55人が参加しました。埼玉合唱団による平和の歌声の中、署名は130筆寄せられました。



7/6

Thu.

埼玉県生協役員等研修委託事業 第1回県内生協組合員学習会 地域コミュニティづくりについて学習

埼玉県県民健康センターにて、西川正さん(NPO法人ハンズオン!埼玉理事)を講師に迎え、「『道』が『通り』に変わる時一人がつながり地域をつくる」と題して開催し、47人が参加。埼玉県内の取り組み事例、コミュニケーション演習をとおして、関わる全員が当事者として、一緒に場をつくりあげる大切さを学びました。



6/21

Wed.

適格消費者団体・NPO法人埼玉消費者被害をなくす会第14回通常総会 2016年度事業報告・活動決算・定款の一部変更等を承認

浦和コミュニティセンターにて、団体・個人正会員等64人が出席し開催されました。池本誠司理事長より主催者代表挨拶、埼玉県県民生活部消費生活課課長田中誠様より来賓挨拶をいただきました。続いて岩岡宏保専務理事から議案を提案し、質疑応答後、賛成多数で承認されました。その後、2017年度体制や事業計画等が報告されました。

会員生協の取り組み

広がる県内生協の 多彩な活動

コープみらい

田んぼや畑でコープみらいの食育「たべる、たいせつ」の取り組みを開催しています

コープみらいでは、生産者やJAの皆さんに協力いただき、5月21日(日)に「田んぼの教室(全2回・吉川市)」、6月4日(日)に「田んぼのがっこう(全4回・川島町)」、6月10日(土)に「畑のがっこう(全3回・飯能市)」の各第1回を開催し、計70家族・268人が参加しました。苗の植え付けから収穫を通じて、食べ物を育てる喜びと苦労を知り、食べ物を大切に作る気持ちを育てる取り組みです。



さつまいもの苗を一苗ずついねいに植え付けました



終始にぎやかな声が響きました

生協パルシステム埼玉

夏の収穫祭 ~沃土会の収穫野菜に感謝しよう~

7月1日(土)、パルシステム埼玉は産直産地である沃土会(深谷市)で夏の収穫祭を行ない、28家族95名が参加しました。

土砂降りの雨の中、生産者に手伝ってもらいながらの収穫となりましたが、小松菜やとうもろこしなど立派な夏野菜がとれました。参加者の子どもたちは、ずぶ濡れになりながらバッタを追いかけたり、水溜りに入ったりと大喜び。収穫後は、女性生産者お手製の料理を食べながら交流を図りました。



生活クラブ生協

年間を通じた米づくり体験交流

生活クラブ埼玉のお米「はにゅ♡う米」を作る生産者と組合員が顔の見える関係を築くために、年間を通じて「はにゅ・米づくり体験交流」を実施しています。5月には「田植え体験」、6月には「生き物調査」を実施しました。「田植え体験」では「田植えに雨は関係ない!」と、雨にも負けず頑張りました。「生き物調査」では、ザリガニや小魚、タニシなどのたくさんの生き物に、大人も子どもも大興奮!米づくりや田んぼを身近に感じてもらうことができました。



さいたま住宅生協

住まいの学習講座を開催

5月27日(土)、「住まいの学習講座」を川越で、組合員と県民の参加で行いました。講師は住宅生協設計者ユニットの一級建築士が担当し、第一部の「シニア世代のリフォームで、大切なこと」では、実例を紹介しながら、大小さまざまなリフォームの予算や目的を明確にすることの大切さを。第二部の「木造住宅の耐震」では、熊本地震の教訓から既存建物の耐震改修や補助金制度を分かりやすく話しました。無料住宅相談では、断熱改修やリフォーム工事などの質問があり、参加者から参考になったなどの感想が寄せられました。



医療生協さいたま

熊谷市、深谷市と見守り協定を締結

4月27日(木)に熊谷市と、5月25日(木)に深谷市と、それぞれ見守り協定を締結しました。医療生協さいたまでは、組合員は機関紙や支部ニュースの配布時に、職員は訪問介護・訪問看護の業務の中で、地域の見守り活動を進めています。こうした活動に対して、両市の市長からは、感謝と期待の言葉が述べられました。

現在、見守りに関する協定締結や登録を行った自治体数は33になっています。

子どものその保育生協

そのはわがふるさと…卒園生が集う夏まつり

7月15日(土)は、子どものその恒例の夏まつり。今年もたくさんの方が遊びに来てくれました。ひよこ組や認定こども園のお父さん・お母さんと保育生協の理事会が力を合わせて、焼きとり・焼きトウモロコシ・カレーライスに焼きそば・フランクフルト・かき氷・ヨーヨーパンチに駄菓子屋さん等々、子どもも大人も楽しみなお店を開きました。「一年に一度ここで会う約束をしています」という卒園生やその保護者達は、盆踊りから最後の花火大会までみんなゆっくり楽しんでくれました。事前準備に熱が入った分だけ達成感もいっぱい夏の夏まつりでした。



大東文化学園生協

乱れがちな学生の食生活を応援

6月15日(木)、日頃の食生活を見直すきっかけづくりを目的に食生活相談会を開催し29名の参加がありました。生協学生委員会が準備や呼びかけを行いました。当日は、学生から体脂肪のことやダイエットについての質問、大学に補助を頂き生協が7年前から実施している「朝食プロジェクト」に対する感謝の言葉もありました。栄養士相談を15分間受けた学生には、栄養バランスの向上を願い、特典としていつものメニューに1品追加できる小鉢券を進呈しています。

